

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770200412		
法人名	社会福祉法人 厚仁会		
事業所名	グループホームさぬき富士		
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1 (電話)0877-21-1000		
自己評価作成日	平成23年6月10日	評価結果市町受理日	平成21年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770200412&amp;SCD=320&amp;PCD=37">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3770200412&amp;SCD=320&amp;PCD=37</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成23年7月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

讃岐富士のふもとに建ち、日中は花や緑に囲まれ、夜は綺麗な夜景が見える落ち着いた環境の中で生活している。ホームの理念にあるように「笑顔、やさしさ、思いやり」を職員全員が持ち、利用者の方と楽しい一日を、一緒に過ごせるよう心がけている。家族の方と一緒に、利用者の方が生きがいを持って自立した生活を送れるよう管理者・職員みんなで話し合っって支援している。また利用者の方、一人ひとりの生活のリズムに合わせ、無理のない、安心安全な生活ができ、また、日常の健康管理や事故・緊急時に対応できるよう主治医・看護師・協力病院との連携をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所開設以来、利用者が笑顔でその人らしく地域で暮らせるには、何が大切であるかを考え、理念としている。職員は理念を実践に具体化できるよう、職員間で前向きに話し合ったり、気づきを率直に指摘するなど職員間のコミュニケーション、信頼関係に結びついている。このような歴史を活かしたつながりを大事に、利用者・家族の意向・要望にそって、優しく適切な声かけや支援を継続している。  
外部評価結果と運営推進会議を結びつけたり、市との連携を密にし、協力関係を築きながら、利用者へのサービス向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である「笑顔・やさしさ・おもいやり」を、管理者・職員全員が共有して実践に取り組んでいる。	理念は、利用者が笑顔でその人らしく地域で暮らせるには何が大切であるかを、事業所独自で考えている。職員は優しい雰囲気づくり、声かけ、気配りすることを共有し、3か月に1回、実践状況を自己診断している。また、外部講師による接遇研修を予定するなど、理念を具体化していくことを意識し取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々が、積極的に来てくださり、交流を深めている。	事業所は介護保険の説明要請があれば、管理者が講師となったり、地域の井出さらいやイベント時の無料駐車場提供など、地域活動に関わっている。利用者が敬老会に参加したり、町の福祉ママボランティアの協力で、餅つきをし地域の人と食べるなど、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会に参加いただいている地域の方々や、ボランティアの方々に、利用者の方と楽しく触れ合っただき、認知症の理解を深めていただけるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告し話し合ったことを、すぐに職員全体に周知し、具体的に話し合い、サービスの向上に活かしている。	地域の理解と支援を得るために自治会長、福祉ママボランティアなども運営推進会議のメンバーに加えた。会議では現状から課題への意見、アドバイスなど双方向的会議になっている。外部評価結果と会議を結びつけ、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	丸亀市健康福祉部高齢者支援課の担当職員の方々と、2か月に1回、グループホーム連絡会でサービス向上に取り組み、協力関係を築いている。	2か月に1回、市担当者と市全体のグループホーム連絡会があり、事業所見学や発表会等に取り組んでいる。また、書類関係の確認や実情を伝えたり、担当者からの課題を職員で検討するなど、連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員が、身体拘束について正しく理解し、職員全員で話し合う時間を定期的に設け、取り組んでいる。	月1回、同法人の特別養護老人ホームと合同で勉強会を開催し、職員は身体拘束について理解している。実践に向け話し合う機会を設けているが、安全を考え家族同意のうえで、プライバシーを確保して抑制することがある。	利用者の介護度の高さ、認知症の程度により、拘束をしないケアの難しさから、安全に過せる工夫はしている。なお、利用者が安全を害する行動に至る要因などを話し合い、抑制をしないでよい工夫の検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで虐待についての勉強会を開催し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員個人での研修はしているが、活用はしたことはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時には、利用者や家族の方と一緒に書類に目を通し、一つ一つ疑問点について分かりやすく答えるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方の面会時、行事に参加して下さった時、運営推進協議会などで、直接意見を聞かせていただき、市の職員・管理者・職員が問題について検討し、運営に反映させている。	利用者は意見・要望を自分から表すことは少なく、家族の面会・行事参加・運営推進会議の出席時などに意見・要望等を聴く機会、雰囲気をつくっている。また、第三者を含め相談窓口があることも説明している。意見等は前向きに受け止め、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回のスケジュール会で、職員の意見や提案を聞き、反映している。	同法人の特別養護老人ホームと合同で、毎週1回、スケジュール会を開催している。当日、出席職員は各職員の意見などを提案し、運営に反映している。また、事業所内では、利用者と馴染みの関係を重視し、職員から利用者の状況等、情報を取り入れ、意見・アイデアを調整しながら運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や各職員を把握し、可能なかぎり、研修の参加機会を確保し、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	丸亀市健康福祉部高齢者支援課主導によるネットワークづくりにも、積極的に参加し、勉強会や施設訪問など、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の話をよく聞くこと、また関係者から詳しい情報を得ること、家族の方に協力していただくこと、困ったり不安なことは解決するまで丁寧に何度も話し合い理解していただくことを、心がけて関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、家族の方に詳しく聞き、その後も面会時などを利用して、職員から声をかけるようにしている。また調査票には詳しく記入していただき、家族の方の要望等を把握するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の方が安心して生活していただけるにはどのようなサービスが必要か、職員全員で話し合っている。どんな時にも、要望に耳を傾けて、より良いサービスを目指すよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方々と寄り添い、一緒に生活を過ごす中で喜怒哀楽を共にし、人生の先輩としてたくさんの知恵を教わり、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に気軽に行事に参加していただき、常に職員とコミュニケーションできる雰囲気をつくり、一緒に本人を支えあう関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・知人などが訪問しやすい雰囲気づくりをしたり、昔の写真を貼り、楽しかった話などを聞かせていただいたりしている。	馴染みの場所へ出かけることは少ないが、親戚や知人が面会しやすく、昔からの関係を続けられる支援をしている。また、昔、一緒にボランティアをしていた人に来てもらうなど、利用者本人が、共に支えてきた関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	立ち上がり時に、一緒に声かけをしていただいたり、食事や起床の誘いや、歌に合わせて手拍子をしていただくなど、関わりあい支えあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退居された利用者、家族の方にも面会に出かけたり、電話をするなど、現在の状態やその後の様子をうかがい、相談によってフォローアップに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態を把握し、本人の希望を取り入れながら支援するように努めている。意思表示の困難な利用者には、職員全員でよりよいケアを話し合い、検討して支援できるように努めている。	利用者一人ひとりの意向等の把握に努めているが、把握が難しい利用者もいる。表情、動作など利用者個別の特徴を、職員が共有したり、利用者をよく知っている人から意向を聴いている。また、利用者と気が合う馴染みの職員が自尊心を傷つけないように、利用者の視点に立ち、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりとしっかり向き合い、深く関わることで、生活歴や暮らし方、サービス利用の経過を知り、今後のサービスに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりと寄り添い、生活していく中で、一日の過ごし方や心身状態、能力を見極めることができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に、本人・家族・看護師・医師等、関係者と連携をとり、利用者に安心して過ごしていただけるよう話し合いをしながら作成している。	介護計画は、利用者や家族の意向、職員や関係者の気づき、意見、アイデアを反映させ利用者の視点で作成している。計画は3か月ごと、利用者に対応できない変化が生じた時、家族の要望が変わった時に見直している。また、新たな変化がないようでも、毎月勉強会の際に、新鮮な目で計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の毎日の様子を分かりやすく記録し、職員間での申し送りは毎日詳しく行っている。新しい気づきや工夫の実践結果など、そのつど話し合い、今後の実践や介護計画の見直しに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に合わせて、デイサービスやケアハウスなどを行き来し、一緒に食事をしている。また、利用者の身体状態に合わせて併設施設の特殊浴槽を利用するなど、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月1回、地域の福祉ママボランティアと一緒に生花をしたり、屋外でお茶やお菓子をいただき、歌を歌って楽しんだり、散歩に出かけ買い物をしたりしている。地域の保育所・小学校児童の訪問もあり、協力しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する医院での、適切な医療を受けられるよう、連絡調整を行っている。	入居時、利用者の受診状況を把握し、今後のかかりつけ医への受診について話し合い、本人、家族の希望に応じている。かかりつけ医の受診時の送迎は、家族の協力を得ているが、利用者の体調、状況を記録にし、家族にゆだね、適切な受診ができるように支援している。受診後は、家族と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設なので、毎日、看護師に利用者の状態報告をし、日常の健康管理、医療活用の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、病院関係者から状態報告を受けると共に、病院に行き、利用者の状態を把握するよう努めている。また主治医には、利用者の毎日の状態報告をし、指示を仰いでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について説明し、アンケートで事前に意見や要望をうかがっている。終末期には、再度確認して、より良いサービスができるようチームで支援に取り組んでいる。	入居時に、終末期に関してどのように思っているか等アンケートを行っている。また、早い段階で終末期について、医療的支援は難しいことなどを説明しながら方針の統一を図っている。職員とは方針を共有し、対応を話し合い、より良いサービスができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が、定期的に急変時、事故発生時の対応の研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えて、定期的に避難訓練を行っている。また、運営推進協議会では、災害についての話し合いをし、地域の方に協力・支援をお願いしている。	同敷地内の特別養護老人ホームと合同で、年4回、昼間の火災を想定して、避難訓練を実施しているが、夜間想定、当事業所が出火想定、地震・水害想定での訓練までには至っていない。職員だけの誘導の限界を踏まえて、地域住民の協力を得る地域連絡網を作成している。主食、飲料水の備蓄をし、定期的な設備点検は業者に委託している。	災害はどの時間帯に起きるか分からないので、夜間等も含め発生時間を想定しての訓練や、グループホームからの出火を想定し、具体的避難誘導策を決めておく必要があり、実践的訓練が望まれる。また、地震や水害(台風)など、地域に応じて具体的な想定での訓練が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活暦をよく知り、その方にあった言葉かけをするよう心がけている。職員全員で気づいた時には、そのつど確認し、プライバシー確保に努めている。	職員は勉強会等で、人の尊重とプライバシーの確保は、利用者の尊厳と権利を守る基本であることを認識している。一人ひとりに接する時、利用者の呼び方、言葉の内容や排泄介助時の言葉かけなど、利用者の誇りを傷つけたりプライバシーを損ねないような対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴・着替え・食事・飲み物・睡眠・行事参加など、利用者の自己決定を促すような言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調や希望を取り入れながら、その方にあったペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、入浴時、外出時などに自分で服を選んでいただいたり、整髪したり、クリームを塗っていただいたりしている。おしゃれの雑誌と一緒に読んで話をするなど、楽しい時間をつくるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事の準備や後片付けを行っている。座っていてもできることを、職員と一緒に楽しく行っている。食事も話をしながら一緒に食べている。	お盆拭き、食卓拭きなど利用者の力を活かし、職員と行っている。食事が楽しく食べやすいように、利用者に応じた盛り付けをしたり、体調不良で食べられない時は好みの饅頭や補助食品で工夫することもある。職員は一緒に食事を味わいながら、介助をしたり話しかけるなど、食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量をチェックしている。摂取量の少ない方や偏食の方には、本人や家族に好物を尋ねたり、補助食品などを利用して、水分も細めに摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声かけて歯磨きやうがいをしていただいたり、義歯の洗浄を行っている。自力でできない方には、ガーゼで拭くなど清潔を保つことができるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、排泄のリズムを把握して、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	職員は排泄の自立に向けて、トイレで排泄できることに近づけたいと考えている。利用者の生活習慣や排泄チェックから排泄パターンを把握し、個々に応じた排泄誘導をしている。利尿剤服用中やパットを使用中の利用者も不快感がないように細やかな支援をしている。排泄介助時は、羞恥心や不安の軽減、皮膚の状態観察等の配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者には、植物繊維などを摂取していただき、排泄がスムーズにできるよう支援している。毎朝の体操やボール投げで体を動かし、便秘予防に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴は行っていないが、日中いつでも入浴できる環境を整え、利用者の希望に合わせてゆったりと入浴できるよう支援している。	日中は、いつでも希望の時に入浴できる。個別入浴介助にあたっては、浴槽に入るのに安全が保てるよう声かけ介助をし、入浴できる意欲に繋がる支援をしている。異性介助もあるが、優しい声かけで安心して入れる支援や、職員全員が不安・羞恥心・恐怖感軽減への配慮をしている。利用者により特養で車椅子浴、特殊浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣・年齢・心身の状態に合わせて、休息できるよう支援している。夜間安心してぐっすり眠れるよう、日中散歩や体操をしたり、居室の明るさを本人の希望にあわせたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬管理表を作成し、職員が常に把握できるようにしている。症状の変化があれば、看護師に報告し、申し送り職員全員が情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	計算の得意な方、歌の得意な方、ボール投げの得意な方など、それぞれの得意なことを教えていただき、職員と一緒に楽しむことができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭先に出て日光浴をしたり、お茶を飲んだり、季節の花を見たり、その日の利用者の状態に合わせて支援している。職員と一緒に散歩や買い物に行ったり、家族や地域のボランティアの方と協力しながら出かけられるよう支援している。	利用者の状態により、コンビニへ買い物、少し離れた所の老人施設や同敷地内の施設へ話しに行くなど、希望で戸外に出かけられる支援をしている。車椅子で庭先に出て、日光や風に当たる支援にも努めている。利用者の状況から普段いけない場所への外出は難しいが、近くの駐車場で桜、つつじの時期にはお茶を飲むなど楽しめる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者のお金の所持は行っていないが、買い物に出かけたときは、レジでの支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、いつでも電話を利用できるよう支援している。手紙や葉書も、自分で書くことができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには四季を感じることができるよう飾り付けをしたり、利用者に生けていただいた花や絵を飾っている。居心地よく過ごしていただけるよう、温度調節やおいなどに気を配り支援している。	玄関には季節の花を生けたり、ホールには利用者の作品などの飾りつけがあり、季節感を感じる。また、壁に利用者の簡単な絵や習字などを掲示し、生活感を感じる。室温も状況に応じ調節したり、ホールには柔らかい色で低めのソファを設置し、利用者がその人らしく過ごせる居心地よい空間の配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にサンルームがあり、家族と一緒に過ごしていただいたり、一人でゆっくり外を眺めることもできる。ホールの一角にソファを向き合わせ、気の合った利用者同士でお茶を飲んだり、話をしたり、自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談して、使い慣れた道具を持って来ていただいたり、家族の写真を居室に貼って、居心地よく生活していただけるよう支援している。	居室には、物入れ(扉付き)や洗面台が整備されている。利用者によっては、出し入れしやすいように衣類等のケースを持ってきている。また、孫からプレゼントの縫いぐるみを飾ったり、家族の写真や自分の作品を飾るなど家族と相談しながら、利用者がその人らしく生活でき、居心地よい居室を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには手すりを付け、ホーム全体がバリアフリーになっている。トイレ・浴槽にも手すりを付け、一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつ自立した生活を送ることができるよう支援している。		